第１学年　生活科学習活動案

指導者　藤枝　尚子（Ｔ１）
須賀　清美（Ｔ２）
山岸　恵　（Ｔ３）
及川　洋平（Ｔ４）
森田　澄子（Ｔ５）

１．　単元名　なつとなかよし「みはまワールドをつくってたのしもう」

２．　単元について

（１）　学習指導要領から

本単元は生活科の内容（５）（６）（８）とかかわりがあるものである。特に、

（６）　身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりなどして，遊びや遊びに使う物を工夫してつくり，その面白さや自然の不思議さに気付き，みんなで遊びを楽しむことができるようにする。 （８）　自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い，身近な人々とかかわることの楽しさがわかり，進んで交流することができるようにする。

という内容と深く関わっている。

ここでは、「なつとなかよし」の学習で、２年生と「うみたんけん」したことを通して感じた身近な自然に目を向け、そこから、遊び自体や遊びに使う物を作る活動を楽しむことができるようにすることを目指している。また、その活動を見せたい相手を最初に意識しながら活動することで、さらに楽しい遊びが作れるように工夫したり、実際に遊びたい相手と一緒にお楽しみ会をしたりして楽しむことで、進んで交流することができるようにすることも目指している。

本校はオープンスペースの作りとなっており、ドアがなく、教室とワークスペース、隣の教室との距離が近くなっている。そこで、その環境を生かし、入学当初から学年全体での活動を多く取り入れることで学年全体の児童の交流の場を増やしてきている。そうすることにより、休み時間や体育の学習、生活科の学習等を実践するたびに、クラスはもちろんのこと、さらにより多くの児童と早い時期から仲良くすることができている。それが本校での学習に適しており、また、本校の児童が必要としている小学校での人間関係作りの基礎を養うことができると考えている。

本単元の学習でも、活動の意欲化を図るために、クラスの枠を取り除き、自分のやりたいものを選択させ、行いたいもの（行いたいところ）別のグループによる活動とした。これは、本校１年生の学年目標である「なかよし」の輪（友だちづくりの輪）をさらに広げ、関係を深めていくことになるとも考えている。「学校に打瀬の海をつくろう！」という１年生の児童共通の願いをもとに、これらの活動を通して児童が満足感を味わうことで、気付きの質を高めていくことをねらいたい。さらには、次の単元の活動へとつながっていくようにしていきたい。

「具体的な活動や体験を通して…自立への基礎を養う」という生活科の目標に沿った体験重視のカリキュラムの開発を行いたいと考え本単元を設定した。低学年の子どもたちには、様々な体験活動が欠かせない。様々な関わりの中で五感を存分にはたら

かせながら、地域の人々や場所に愛着がもてるような、地域性を生かしたカリキュラムの開発をしたいと考えている。

（２）単元の目標

○　身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったり、身近な自然から発想を広げたりなどして、遊びや遊び場を工夫したり、遊びに使うものを工夫して作ったりする活動を楽しむことができるようにする。

○　友だちと一緒に作ったり、楽しんだりしながら身の回りの人々とかかわるなかで、自分や友だちのよさに気付くことができるようにする。

（３）単元の評価規準

○思いや願いをもって、遊びや遊びに使う物をつくろうとしている。

（生活への関心・意欲・態度）

○身近な自然や物の中から、遊びを考えたり、飾ったり使ったりしてみたい物をみつけたりしている。（活動や体験についての思考・表現）

○自分のことや伝えたいことが相手に伝わる楽しさが分かっている。

（身近な環境や自分についての気付き）

３．部会の研究課題とのかかわり

研究課題（１）学校や地域の特色を生かした単元開発をする。

①児童にとって身近な環境を活動の対象とする

本校の近くには幕張の浜があり、学区内にある多くのマンションからは海が見えるため、児童は日頃から海を身近なものと感じている。また、本校では２年生が計画して１年生を海へ連れて行き一緒に夏を感じて遊ぶ「うみたんけん」が伝統になってきている。そこで、今年も、２年生と１年生が一緒に「うみたんけん」に行き、身近な海の砂浜や水辺で一緒に遊ぶことで、夏という季節を味わいながら自然の面白さや不思議さに気付くことができるようにしていきたいと考えた。海では、水辺の生き物がみられたり、貝殻がたくさん落ちていたり、砂浜の砂を使って絵を描いたりする活動ができ、自然の面白さや不思議さに気付くことができる。また、潮が満ち引きするようすを、砂の色や砂浜の広さから感じることで自然の不思議にも気付くことができる。さらには、大きな船が行き来するようすから、海の深さや広さを感じることもできる。そうすることで、自分達が住んでいる場所により愛着をもち、すぐ近くにある海をより身近に感じることができるであろうと考えた。

②お世話になった２年生を招待してのお楽しみ会を行う。

「うみたんけん」をしてきたあと、児童が実際に体験し、見て、気付いてきたことをもとにして、そこから楽しい遊びを創り出すことができるようにしていく。楽しい遊びを考える際には、まず、入学してまもなくからお世話になっている２年生と一緒にまた遊ぼうということを意識させたい。一緒に遊ぶ相手を意識しながら遊びや遊び場を工夫したり、遊びに使うものを工夫して作ったりする活動をすることで、より具体的な学びができるであろうと考えた。遊びや遊び場をつくる活動では、まずは自分達が遊びを十分に楽しめる時間をとることで満足感を味わわせることを大切にしたい。また、遊びや遊び場をつくっていく課程では、「おためしタイム」を設定し、何度か試しながら活動することで、児童が遊びを繰り返し楽しみながら、その遊びを質の高い

ものへと工夫していけるようにする。

本単元では、これらの一連の活動を通して、地域の環境を生かし、五感を存分にはたらかせながら体験活動を繰り返していくなかで、児童の気付きの質を高めることができるような単元開発をしていきたいと考えている。

研究課題（4）他教科、総合的な学習の時間との関連を図る。

見てきたことを表現する活動の場を設定する際、他教科との関連を考えている。児童はこれまで、生活科や行事でいくつも体験活動をするたびに、国語科の「あのね作文」の学習と関連して絵や文に書き留めてきた。まだ五十音全てを習っていない時期には、保護者の協力を得て、児童は見たり体験したりしたことを絵に描き表すことを中心にし、家庭で描いた絵を見ながら話し伝え、保護者が書き留めるという活動をしてきた。そうすることで、入学してまもない児童の学校生活を知ることができたので、保護者にも安心して児童の学校生活を支えてもらえることができていると考える。「うみたんけん」で体験してきたことも、国語科の「あのね作文」に書きとめた。また、図画工作科の学習で、海での活動を絵に描き表す活動も行った。さらに、見てきたことや体験してきたことをもとに発表会をする活動では、自分の思いを自由に表現することができるような場をたくさん設定する。このときにも、何かを「つくる」活動では、切ったり貼ったりつなげたりなどをする活動においてはまず、図画工作科で、はさみなどの安全な用具の使い方やのりの扱い方などをしっかり指導しておく。児童には、国語科も図画工作科も生活科も垣根がないように思えるのかもしれないが、このように、生活科を中核として、色々な教科を弾力的、合科的に扱うことで、入学してまもない１年生にもゆったりと学習に取り組むことができるようになり、滑らかに小学校の学習活動へ移行していけるのではないかと考えている。

４．児童の実態から

（1）この単元を通して育てたい子どもの姿と子どもの思い・願い

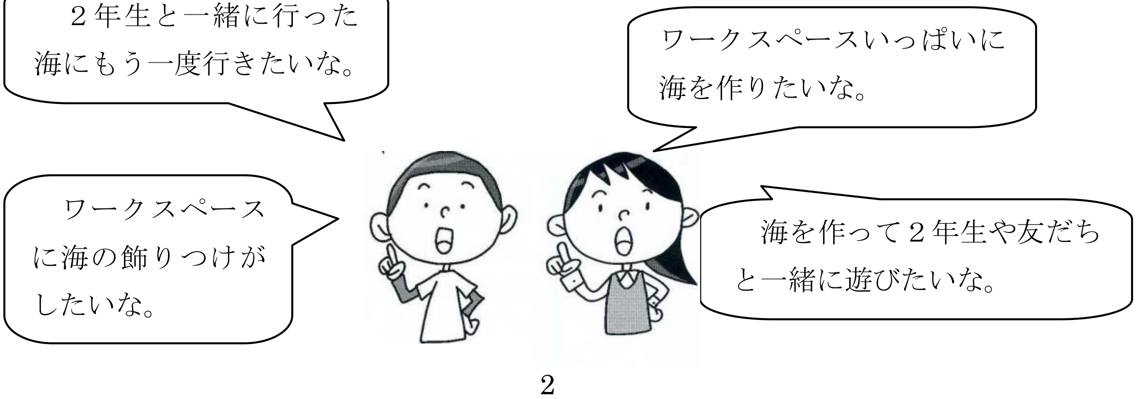
この単元を通して育てたい子どもの姿

○　身近な自然から発想を広げ、遊びや遊び場を工夫したり、遊びに使うものを工夫して作ったりする活動に主体的にかかわっていくことができる子ども

○　海で見つけたものから発想を広げ、身近にある物が何に変身するかを考え、工夫して遊びや遊び場作りを表現し、楽しく活動することができる子ども

○　友だちと一緒に作ったり、遊びを楽しんだりしながら身の回りの人々とかかわるなかで、自分や友だちのよさに気付いたりすることができる子ども

子どもの願い・思い



（２）教師の願いと配慮事項

＜※配慮事項→子どもの思いや願い、教師の願いを達成するために配慮すること、手立て＞

教師の願い

（生活への関心・意欲・態度）	（活動や体験についての思考・表現）	（身近な環境や自分についての気付き）
①　海探検を通して、身近な地域にある自然環境に目を向け夏の海での遊びを十分に楽しんでほしい。また、そこで見たり感じたりした自然に関心をもって、友だちや２年生と楽しく遊べる場や遊ぶものをつくる活動を楽しんでほしい。	②　海で見つけた自然を友だちと一緒に体全体で存分に味わって楽しんでほしい。そして、海での体験を通して感じたことや、海で見つけたものでもっと遊びたいという思いから発想を広げ、自分なりに工夫して遊びや遊び場作りを表現してほしい。	③　夏の海を探検して遊んだことや、そこから発想して作った遊びや遊び場作りの活動を通して、身近な自然から発想して遊べる楽しさを味わってほしい。また、遊びや遊び場で楽しむことから、自分や友だちのよさに気付いたり、さらには友だちと一緒に遊べる楽しさに気付いてほしい。

※配慮事項

①　日頃から、生活科や季節の行事、休み時間の遊びなど、１，２年生合同で活動する場を設定することで、関わり合う機会を増やし、学年を超えて仲良くできるようにする。海探検で見つけてきたこと、楽しんだことをそれぞれの学年フロアに掲示し、１，２年生で遊んだ海探検の思い出を振り返りやすい環境を作っておくようにする。	②　子どもの体験、思いや願いを大切にし、どんなものを作りたいか、どんな遊びをしたいかを思い起こせるような声かけをする。クラスの枠を取り除き、自分が作りたいものを作れるようなグループ作りに配慮する。また、材料や素材を自由に選択できるよう準備をしておくことで自由な発想が広がっていくようにする。そのために、どんな遊びや遊び場作りをしたいか、カードを工夫することで、自分の思いや願いを周りに伝えやすいようにもしておく。	③　海で２年生と思いっきり遊ぶ活動を通して、夏の海のようすに気づき、自然の素晴らしさや季節の変化に気付けるようにする。児童に声をかけながら一緒に活動することで、児童の活動のようすを見取り支援したり、海でのようすを「あのね作文」に書き表すことで、自分のよさや友だちとのかかわりを振り返ることができるようにし、友だちと一緒に遊べた楽しさに気付けるようにする。

（３）配慮事項に関する実態

○配慮事項①に関連して

・生活科を通じて行う２年生との交流への関心　　（行動観察・つぶやきより）

入学してから、生活科の「ようこそのかい」のなかでの遊びや学校探検、休み時間の遊びなど、１，２年生が一緒に仲良く活動できる交流の場をたくさん設定することで、関わり合う機会を増やしてきた。交流の場では、毎回同じペアを決めて関わりあってきたことで、すぐに名前を覚え、学年を超えて仲良くすることができてきていた。繰り返し交流を重ねてきたことで、１，２年生で行われた海探検での顔合わせ会では、海で一緒に遊びたいことを「魚をみつけたい」「一緒に貝殻を探そう」

などと楽しそうに話し合うことができ、海探検へのイメージをどんどん膨らませていく姿がみられた。また、海探検後には、海探検で見つけてきたこと、楽しんだことをそれぞれの学年フロアに掲示したことで、貝殻を触ったり、写真を見たりして「ヤドカリをたくさんみつけたんだよ」「すなを掘ったら水がどんどん出てきたよ」「船がたくさんいたよ」「また２年生と海に行きたい」など、１，２年生で遊んだ海探検を楽しそうに思い出している児童の姿がみられた。

海探検を思い返したり、掲示物をみて思い出を回想することから、身近な海に関心を高め、大好きな海の遊びや遊び場を作ることを楽しめるようにしたい。

さらに、これから、２年生を招待しての「みはまワールドをたのしもう」の会で遊びや遊び場で一緒に遊んだり、２年生と保育園児を招待しての「おほしさまのかい」を一緒に過ごすことで、生活科を軸とした異学年との交流を進めていきたい。

○配慮事項②に関連して

・身近な自然のなかでの遊びの経験　（行動観察・つぶやきより）

大潮の日を選んだことで、広い砂浜や潮溜まりでたくさんの夏の海での活動ができると考えた。小魚をみつけ「こっちにいるよ」と大きな声で友だちに知らせて一緒に追いかけたり、砂浜を掘って「下から水が出てくるよ」と言いながらバケツやシャベルなどの遊ぶ道具を仲良く共有しながらダム作りをしたり、「水が温かくて気持ちいい」「もっと遊びたい」「ずっといたい」と言いながら体全体を使って夏の海を存分に楽しむ姿がみられた。この海での体験を生かし、自然の素晴らしさや季節感に気付くことでそれを豊かに表現できる学習活動にしていきたい。

・クラスの枠を越えた友だちとの活動　（行動観察・つぶやきより）

教室と廊下の境目がなく、隣の教室との距離も近く感じられるオープンスペースという校舎の作りから、児童は日頃から他のクラスの児童とも気軽に交流することができている。入学してすぐから、休み時間には、同じ遊びに関心をもつ他のクラスのいろいろな友だちが交流しあって遊ぶ姿がみられている。そこで、海づくりをするに当たっても、子どもの思いや願いを大切にし、どんなものを作りたいか、どんな遊びをしたいかを思い起こせるような声かけをしていきたい。また、そのためには、クラスの枠を取り払い、自分が作りたいものを作れるようなグループ構成に配慮していきたい。

・カードを活用した活動の振り返り　（行動観察・カードより）

どんな遊びや遊び場作りをしたいか、１年生でも扱いやすいようにカードを工夫することで、自分の思いや願いを周りに伝えやすいようにしていく。五十音や数字を習い、文字を書くことにとても意欲的な児童ではあるが、まだ入学して２ヵ月あまりであるので、絵やマークを活用することで、よりわかりやすく、一人ひとりが学習活動を振り返りやすいカードになるよう配慮していきたい。

○配慮事項③に関連して

・身近な自然の素晴らしさや季節感への気付き（行動観察・プリント・つぶやきより）

海で２年生と思いっきり遊ぶ活動を通して、「遠くに船が見えるよ」「水が温かい」「小さい魚がたくさんいるよ」「貝が動いた」など夏の海のようすに気づき、自然の素晴らしさや季節の変化に気付いていた。海探検後、海でのようすを「あのね作文」

に書き表す学習では、用紙全体を青く表現したり、何人もの友だちと一緒に遊ぶ姿を描いたり、海探検が児童にとってかけがえのない体験だったことに気付くことができるようなものがたくさんみられた。

・自分や友だちのよさへの気付き　　　　（行動観察・カード・つぶやきより）

「○○ちゃんと仲良くなった」「２年生と遊んで楽しかった」「また２年生と海で遊びたい」「○○ちゃんが上手に魚をつかまえていた」など海から帰ってきてからの振り返りで、児童は海探検の余韻に浸りながら１年生の友だちや２年生との体験活動を思い返して楽しそうに話したり「あのね作文」に表現したりした。それらから、友だちと仲良くなれた自分に気付き、また、海で活躍した友だちのよさに気付いている姿を見取ることができた。

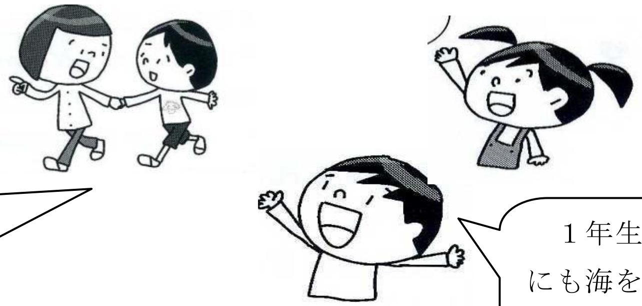
単元全体を通して、児童のつぶやきを周りに紹介したり、児童の活動の良いところを称賛したりしながら、自分や友だちのよさに気付くことができるような助言をしていきたい。

５．活動の流れ（１１時間扱い）

活動のきっかけ

海探検に連れて行ってくれて、一緒に楽しく遊んだね。

「なかよくしようね」の会で一緒に遊んでくれたり学校探検をさせてくれたりしたね。



また２年生と一緒に海に行って遊びたいきたいな。

１年生のフロアにも海を作りたいな。

主な活動と内容

はなややさいをそだてよう

（２）

小単元の評価規準

○花の咲く様子や野菜や植物の収穫を通して、植物の成長を感じるとともに、自然に親しむことができる。（関心・意欲・態度）

○育ててきた植物の立場に立って考え、世話の仕方を工夫している。（思考・表現）

○生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。（気付き）

○毎日アサガオのお世話をする。

○アサガオの花の数をカードに記録する。

○いろみず遊びや押し花などをして楽しむ。

○綿や落花生の種を植えて世話をする。

（留意点）

・植物や生き物の世話の仕方について、紹介することで、植物や生き物への関心が高まるようにする。

・アサガオの日々の変化に気付くことができるよう毎日アサガオの様子をみるように声かけをする。

なつのこうえんたんけんにいこう　（２）

小単元の評価規準

○身近な公園の夏の様子に関心をもち、体全体を使って広い公園で身近な自然と触れ合おうとしている。（関心・意欲・態度）
○五感を使って、身近な自然を観察している。（思考・表現）
○公園での約束やルールが大切なことや、それを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。（気付き）

○中庭や芝生の広場で夏探しをする。
○海浜幕張公園で夏探しをする。
・みつけた夏の草花で遊ぶ。
・公園の坂を転がり下りる。
・春との樹木の違いをみつける。
・ビンゴゲームをして楽しむ。
○公園探検でみつけた夏について、あのね作文にかく。<国語>

（留意点）
・ビンゴカードや草花に関する本等を用意し、自然に目を向け、五感を使って自然と触れ合うことができるようにする。
・児童の小さなつぶやきや発見を取り上げ称賛することで、自然と触れ合うことが楽しいという思いを引き出していく。
・行き帰りの道の歩き方や公園での約束を確認し、ルールを守って遊ぶことの楽しさを知ることができるようにする。

うみたんけんにいこう　（２）

小単元の評価規準

○海辺の自然や、海辺での遊びに関心をもって楽しもうとしている。（関心・意欲・態度）
○身近な自然や物のなかから、遊びを考えたり、使ってみたいものをみつけたりし、比べたり、試したり、見立てたりして遊びを工夫している。（思考・表現）
○海での約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。（気付き）

○２年生と海探検の計画を立てる。
・計画をたてたあと、サンタイムに一緒に遊ぶ。
○２年生と海探検に行く。
・貝殻集めをする。
・砂を掘って造形遊びを楽しむ。
・潮溜まりにいる小魚やカニなど水辺の生き物を探す。
・波打ち際で潮の満ち引きを楽しむ。
○海探検でみつけた夏や、２年生と一緒に遊んだことをあのね作文にかく。<国語>

（留意点）
・１，２年生担当で事前に実際に行く道を通って下見をし、遊び場やトイレ水回り等を熟知して安全に配慮し、楽しい探検になるようにする。
・児童が海を十分楽しめるようにするため、潮の干満を事前に調べた上で計画をたてるようにする。
・１，２年生がより仲良く活動できるようにするため、児童がペアで集まり、事前に海での遊びを計画する顔合わせ会を行うようにする。

みはまわあるどをつくってたのしもう。　（６）＜本時＞

小単元の評価規準

○２年生とや友だちとみんなで楽しく遊ぶために、身近な自然や物を使って、遊びや遊ぶ場をつくろうとしている。（関心・意欲・態度）
○比べたり、試したり、見立てたりして、繰り返しながら遊びを工夫している。（思考・表現）
○友だちと一緒に作ったり、楽しんだりしながら身の回りの人々とかかわるなかで、友だちや自分のよさに気付くことができるようにする。（気付き）

○海探検について振り返る。
○海探検で見つけた夏から想像を膨らませ、友達や２年生と遊べる遊びや遊ぶものを作ったり遊んだりする。
○２年生を招待してみはまワールドで遊びを楽しむ。
※発表の仕方を学んだり、練習したりすることは国語科で扱う。

（留意点）
・海探検を思い返せるような環境を掲示する。
・活動の見通しをもつため、絵や簡単な文で自分が作りたいものをカードにかき表すようにする。
・児童が学びあえるよう、活動場所の配置に配慮する。
・接着剤やはさみ等の作り方は図画工作科で扱い方を教えておく。

なつやすみのすごしかたをかんがえよう。　（１）

小単元の評価規準

○身近な自然、夏の季節や夏に行われる地域の行事に目を向け、関心をもってかかわろうとしている。（関心・意欲・態度）
○季節や地域の特徴と人々の生活とのつながりを考え、地域の行事とのかかわり方を工夫している。（思考・表現）
○季節によって生活の様子が変わることに気付いている。（気付き）

○夏休みの過ごし方を考え、どんなことをしたいか話し合う。
○夏休みに出かけたり、遊んだり手伝ったりする計画を立てる。

（留意点）
・規則正しい生活ができるよう、しおりを活用して夏休みの生活の計画をたてるよう話し、児童が夏休みの生活に見通しをもてるようにする。

６．配慮事項に関する具体的な手立て

配慮事項①に関連して

海探検で行った海をつくろうという意欲を高めていくため

○ワークスペースの環境に配慮することで、「みはまワールドをつくってたのしもう（学校に打瀬の海をつくろう！）」という意識を高めていく。

交流への関心を高めるために

○日頃からクラス隔てなく遊んだりふれあったりする場を設定する。２年生とも休み時間等を使って積極的に交流を進め、深めていく。

・作った遊びや遊び場で２年生と遊びたいという気もちが高まるよう、日頃から継続

して交流を続ける。

○ワークスペースの環境を活用する。

・海探検での活動の様子の記録写真を１，２年生のワークスペースに掲示することで、どちらのスペースをみても海探検を思い返すことができるようにし、１，２年生相互の思いを大切にできるようにする。

○場の工夫をする。

・グループとグループの児童が互いに交流しながら学びあえるために、活動場所の設定に配慮する。似た内容のグループが近くで活動することによって、学びの場が広がっていけるようにする。

配慮事項②に関連して

海での自然を存分に味わうために

○海探検では、潮の干満にも配慮して大潮の日に探検の日程を決める。

・大潮の日に探検をすることで、いつもより広い砂浜や潮溜まりで十分な活動ができるようにする。

・振り返りカードを活用して、いつも、自分が何をするか、自分の思いがどうだったかということを一目で振り返ることができるようにする。困ったことや友達との関わりもすぐに見取ることができるとともに、友達とのかかわりや活動後の心情を見取ることができる。

・安全で楽しい体験活動とすることができるように、近隣のホテルと連携を取り、非常時の安全にも十分配慮しながら計画をする。

学習カードの活用

○クラスの枠を越えた活動をするため、学習カードを工夫し活用する。

・学習カードを工夫することで、児童一人ひとりを見取ることができるようにしていく。カードは、１年生でも使いやすいように、付箋メモを簡単に貼り付けられるようにしたり、顔のマークで気もちを表現したりしていく。

配慮事項③に関連して

身近な環境や自然の素晴らしさ、季節感への気付き

○海探検で２年生と思いっきり遊ぶ活動を通して、夏の海のようすに気づき、自然の素晴らしさや季節の変化に気付けるようにする。

・自分たちが住んでいる地域の良さにも気付き、愛着がもてるようにする。

・海という場所に特に配慮し、１，２年生担任、少人数の先生が浜辺の各位置に立って児童に声をかけながら一緒に活動することで、多くの目で児童の活動のようすを見取り支援していく。

自分や友だちのよさへの気付き

・海でのようすを「あのね作文」に書き表すことで、自分の思いや友だちとの関わりを振り返ることができるようにし、自分や友だちのよさに気付くことができるようにする。さらに、友だちと一緒に遊べた楽しさに気付けるような声かけを活動中や事後に行うことで、これからの体験活動も友だちと楽しくやっていきたいという気持ちを高めていけるようにする。

７．本時の指導

（１）本時の目標

○自分の思いや願いをもって、遊びや遊び場をつくることができる。

○友だちと一緒に工夫しながらみはまワールドでの遊びや遊び場をつくったり、楽しんだりすることができる。

○遊びや遊び場づくりをしながら周りの人々とかかわるなかで、友だちや自分のよさに気付くことができるようにする。

（２）展開（９／１３）

主な学習活動と内容	○…指導上の留意点　　☆…評価の観点
１．本時の活動やめあてをつかむ。 ○２組前に集まって話をきく。	○前時の活動を思いおこせるように話をする。 ○本時は、遊びや遊び場を試しながら作り楽しむことを話し、２年生と遊ぶための楽しいものや場を作りたいという気持ちを起こさせる。 ○音楽が聞こえたら活動を中断し、活動したクラスの前にいつものように集まることを確認しておく。 ○友だちに、作り方を教えてもらいたいときにどうすればいいか、子ども達に問いかけながら、２人の教師で実演してみせる。
みはまわあるどをつくってたのしもう。	
２．グループに分かれて遊び場づくりをする。 うみののりものグループ（及川 T） <海でみた船を思い出して> ○浮かべられる船を作りたい。 ・空きトレイなどを使ってつくる。 ○見る船を作りたい。 ○乗ることができる船を作って乗りたい。 うみのようすグループ（須賀 T） <海のなかをイメージして> ○ローラーやマーブリング、スズランテープなどを使って１年生のフロアに海を作りたい。 うみのいきものグループ（藤枝 T） <海でみつけた生き物を思い出して> ・魚を絵に描きたい。 ・魚釣りを作って楽しみたい。 ・魚釣りをするための海を作りたい。	○グループごとに「おためしタイム」を設定して、児童に考えを促して発想を大切にしながら、もう少し工夫したほうがよりよくなるところを助言する。 ○上手にできている児童の作品を見せたり、作るためのヒントを与えたりして、活動に意欲的に取り組めるよう教師が補足する。 ○今まであまり話をしたことがない友だちでも、挨拶をして作り方を詳しく聞いたり、教えてもらったら感謝の気もちを伝えたりするよう助言する。 ☆友だちと一緒に工夫しながら遊びや遊びに使う物を作ったり、楽しんだりしようとしている。　　（関心・意欲・態度） ○楽しかったこと、工夫したこと、友だちに教えてもらってできたことなどを思い返して発表する。 ○発想が膨らむように、活動内容が近いグループで活動場所を配置することで、学びあえる

・魚を紙粘土で作って飾りたい。 うみのおとグループ（山岸T） ＜海で聞いた音を思い出して＞ ・船や海の音を作る。 ・自然のものをつかった音探しから音作りをする。 ・空き容器で楽器をつくる。 ・音を体で表す。 ・音を録音する。 うみのおはなしグループ（森田T） ＜海のお話づくりをする＞ ・海たんけんの思い出を絵日記にかいたり、紙芝居を作りたい。 ・海のことを想像してお話を作りたい。	ように工夫する。 ○いろいろつくってみて、どれがいいか試すことができるよう助言する。 ○音楽が聞こえたらグループごとに集まる。 海で見つけたものや身近にある物が何に変身するかを考え、工夫して遊びや遊び場作りを表現している。（思考・表現）
３．今日の活動を振り返る。 ・グループごとに自分が作ったものを見せ合う。 ＜ふりかえりカード＞を書く。 ４．次時への見通しをもつ。	○友だちのよかったところも話せるよう促す。 ○頑張ったことを振り返りカードにかく。 ○イーゼルに画板をおいて、そこに貼る。 遊びを工夫したり、友達とかかわって遊びや遊び場づくりをしたことを振り返り、自分なりの方法で表している。（気付き）